

# 生存科学研究ニュース

VOL. 12. NO.4

1997. 7. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

## 平成9年度第2回理事会・第1回評議員会

平成9年5月28日(水)午後2時から、東京福音会センターにおいて平成9年度第2回理事会ならびに第1回評議員会が開催された。理事会は20名のうち出席者15名(委任状による者を含む、議長:江見理事長)、評議員会は27名のうち出席者17名(委任状を含む、議長:向山評議員)によって有効に成立し、審議は以下の通り行われた。

- 1.平成8年度事業報告および収支決算書
- 2.新執行体制については、前回、理事に推薦された高瀬浄氏が辞退されたが評議員として留まっていた旨、全員了承した。
- 3.川崎病研究会独立に伴う基金の分離、および借入金(2千万円)の返済について取交わした覚書について、全員了承した。
- 4.平成9年度事業計画については次の提案が承認された。
  - ①自主研究事業費、a「21世紀医療システム研究会」200万円、b「生存科学基礎論研究会」200万円、c「都市型大災害後の復興期における非定住学童児の精神的変化と復学支援効果に関する準備調査研究」100万円
  - ②協同研究費として、a.レオンシェフ文庫受け入れに関し、パパイオスへの配分金、b.川崎病研究会への返済金、c.バイオサナトロジー

関西研究会の開催費、d.講演会開催費・広報費、e.学術研究誌発行事業、についての予算配分が説明された。うちdについては今年度より「生存科学講座」が開催されること、eについては武見基金からの配分金について事前に契約書を作成するよう提案がなされた。

- 5.第2次リストラ案について、収支予算のマイナス要因が説明され、それへの対応策として、資金運用替え、寄付金増収運動案が提案され、同時に「公益法人の新運用基準」の遵守が申し合わされた。
- 6.その他師岡専務理事より、日本原子力発電株式会社から、生存科学研究所に「個人毎の健康度と疾病リスクの解析に関する研究」の委託研究依頼があったことの報告があり、監督官庁と相談の上、常務理事会において決定することで了承された。

## 平成9年度第1回常務理事会

6月11日(水)午後2時から、平成9年度第1回常務理事会が開催された。

江見理事長が議長に就任し、次の4議題が審議された。

- 1.受託事業の件  
日本原子力発電株式会社からの受託事業「個人毎

の健康度と疾病リスクの解析に関する研究」に関し、科学技術庁との相談、予算案の変更届、受託事業の予算額、バイオ・コミュニケーションズとの委託契約、本研究所への納入率等について説明が行われ、土屋、師岡両氏に一任して、本受託事業を本年度の事業計画に追加することに決定。

2. 事務組織・職務分担について、新体制を確立し、常務理事全員の分担関係を定めた。

3. 生存科学講座の件

年間の開催スケジュールを定め、講演依頼者の範囲と謝礼などの考え方が議論された。

4. その他

①レオンチェフ文庫に関する特別寄託金の分配、②川崎病研究会の借入金の返済、③日本医師会等関係諸団体との密接な交流等について報告・説明が行われた。

### 平成9年度第2回常務理事会

6月24日(火)午後2時から、生存科学研究所会議室で、平成9年度第2回常務理事会が開催され常務理事7名、事務局側2名が出席した。

江見理事長が議長に就任し、以下の議事が審議された。

1. 公益法人設立・運営の基準について「公益法人の設立許可および指導監督基準」とそれにもとづく運用指針に照らして、本財団の現状が基準を満たしているかどうかについてチェックが行われた。

2. 事務引き継ぎについて、(1)共同研究事業のA. レオンチェフ・プロジェクトと、B. 川崎病研究会への借入金の返済計画と、川崎病研究会の独立に伴う条件が満たされず、更新が不可能になった場合の減収への対応。(2)学術研究誌発行

事業について基金との分担金収受の問題が協議された。(3)受託事業を受託した場合の必要書類の作成と事務手続きが示された。(4)事務については、①2人体制における事務量消化の工夫、②規則・内規の整備の必要性。(5)今年度収支状況について①第2次リストラ案の実施、②基本財産運用替え、③外国債券の売却について討議がされた。

3. 生存科学講座の件

6月28日(土)に開催される第一回生存科学講座のPRの一層の強化について。

4. その他

①レオンチェフ文庫について筑井副理事長より進捗状況の説明、②ト部常務理事よりバイオサナトロジー学会が6月7日に第1回関西きらめきフォーラムを行ったことの報告があった。

### 自主研究「21世紀医療システム研究会」発足

標記の研究会の第1回が、7月14日(月)午後5時から開催された。研究会は、日本における医療経済学研究の第一線で活躍する大学教授・研究者8名のほか、本研究所の会員2名が加わり、熱気溢れる研究会のスタートとなった。

報告者は江見康一理事長による「日本における医療経済学発展の系譜と現状」について、国民医療の動向と関連させた総合的分析が示された。

出席者は、井内照夫(日本団体生命副医長)、江見康一(生存科学研究所理事長)、漆博雄(上智大学経済学部)、高橋伸彰(日本開発銀行設備投資研究所)、二木立(日本福祉大学)、西三郎(愛知みずほ福祉大学)、長谷川敏彦(国立医療・病院管理研究所)、府川哲夫(国立社会保障・人口問題研究所)、藤井良治(千葉大学経済学部)、向山定孝(三井業際研究所顧問)であった。

今回は9月8日(月)に日本福祉大学教授二木立氏による「日本型保健医療福祉複合体の実証的研究」が発表される。

## 第1回生存科学公開講座

### 1. はじめに

「生存科学」といういかめしい名前の研究分野に親しんでいただく一助として、生存科学研究所では、会員を中心に一般聴講者をも対象として、当面月一回のペースで公開講座を開くことにし、その第1回が6月28日(土)午後1時半から東京福音会センターで開催された。

講師は本研究所理事長の江見康一氏で、そのテーマは「歌と人生の経済学」であり、以下はその要旨である。

### 2. テーマの趣旨

「歌と人生の経済学」というテーマが、生存科学とどういふかかわりを持つかについて疑問を持たれる向きがあるかもしれない。私は、「生存の理法」というのは、私たち人間が未来永劫に生き永らえていくためには、どういふ心構えと、それを可能にする物質的基盤の備えおよび社会経済的システムの構築が必要であるかの理論を明らかにするものであり、このうち前者については生きていこうとする精神力高揚の糧となるもので、歌や音楽はその貴重な要素であると考えます。歌は、それを歌う人に生きる喜びや勇気づけ、心の癒しや安らぎを与え、感性や情緒を培うもので、それが人間生存の内発的原動力となる。

もう1つ「歌は世につれ、世は歌につれ」といふ言葉が示すように、どういふ時期にどういふ歌がはやったかによって、世相や時代の大きな流れを読みとることができ、また自分がどうい

う年頃でどういふ歌を歌ったかによって、「自分史」を綴ることができる。そこで、昭和の初めから平成の今日までの約70年間に歌われた歌を時代区分別に整理し、この間の「世相史」を整理してみた。

### 3. 歌謡曲70年の系譜

- (1)昭和初期の不況と古賀メロディー
- (2)昭和10年代と中国大陸への憧れ
- (3)戦争と心の癒し
- (4)終戦と焼土からの立ち上り
- (5)神武景気から歌は上昇気流へ
- (6)「地方の時代」を歌い石油ショックに揺れる
- (7)不況になると歌は北指向になる
- (8)バブルの終幕、平成不況からポップス・ロック調が主流に

以上の各段階ごとに、それぞれ個々の歌謡曲名が具体的に列挙される(ここでは割愛)。

### 4. 歌の魅力

歌はinternational languageであり、国境を越えて人々の心をつなげる。ライン川の川下りの船上で歌ったローレライと即興の日独の交歓、スウェーデンの老人ホームを訪問して歌った「花」。メロディーだけでも心は通じる。ましてや同じ歌の輪に集う仲間づくりや、同時代を生き抜いてきた思い出の歌が、どれだけ生きる喜びと生命力の高揚になることか。しかし最近の歌が自然の風景のもつ季節感や、それに感じ入る人々の心を写すことが少なくなったことを残念に思い、人間の心の歌の再生を願う。

### 《参考文献》

1. 江見康一「歌謡曲と景気変動」【ESP】  
昭60・11
2. 江見康一「続・歌謡曲と景気変動」【ESP】  
平9・3

## 第2回生存科学講座のお知らせ

第2回生存科学講座は下記の通り開催いたしますので、ぜひご参加下さい。なお、参加費は1000円ですが、生存研の会員は無料で参加できます。

### 記

日時 平成9年7月26日(土)1:00~3:00  
場所 東京福音会センター

中央区銀座4-2-1銀座教会内

☎03-3561-2910

講師 師岡 孝次 生存科学研究所専務理事・  
日本健康科学学会常務理事・東海大学  
教授・中国医科大学顧問教授・ウイン  
ザー大学客員教授・慶応大学講師

参考文献 「痴呆にきく薬」師岡著・日本ブラン  
ニングセンター

「長寿の健康科学」師岡編著・日本ブ  
ランニングセンター

テーマ 脳の生存科学——脳を健康で長く生存  
させる科学の考え方——

注)参加者先着30名様に中国医科大学  
と共同開発した羅盛門Ⅱ(痴呆にきく  
薬)を謹呈

参加費 一般1000円、会員無料

連絡先 TEL03-3563-3518 FAX03-3567-3608

ご参加を希望される方は事務局までなるべく葉  
書、あるいはファックスでご連絡下さい。

## 第3回以降の生存科学講座の予定

生存科学研究所では今後も下記の通り生存科学  
講座を予定しております。

場所は東京福音会センター(中央区銀座4-2-1  
銀座教会内☎03-3561-2910)時間は1:00~3:  
00、参加費は、一般1000円、会員無料です。ど  
うぞ、奮ってご参加下さいませよう、お願い申し上  
げます。

第3回 日時:平成9年8月23日(土)

テーマ:日本に医療はない

講師:卜部 文麿 生存科学研究所常務  
理事、精神科医

第4回 日時:平成9年9月27日(土)

テーマ:日本の医療保険制度の行方

講師:田村 貞雄 生存科学研究所理  
事、早稲田大学教授

## 研究所日報

5月28日(水) 平成9年度第2回理事会

5月28日(水) 平成9年度第1回評議員会

6月5日(木) 平成9年度第2回編集小委員会

6月7日(土) 第1回関西きらめきフォーラム

6月11日(水) 平成9年度第1回常務理事会

6月18日(水) レオンシェフ文庫等協力委員会

6月24日(火) 平成9年度第2回常務理事会

6月28日(土) 平成9年度第1回生存科学講座